まちづくりガイドラインの基本構成案

第３回ワークショップの各グループでの検討結果を踏まえ、現段階での「まちづくりガイドライン基本構成案」を下記のとおりとします。

１章. 鹿駅周辺ガイドラインとは

策定の目的、対象エリア、地区の特性や課題、ガイドラインの役割などを記載

２章. わたしたちが大切にしたい宝

時代を超えて残したい地域の宝を記載

３章. めざしたい将来の姿とまちづくりの目標

鹿児島駅周辺の将来像とまちづくりの目標（テーマ）を記載

４章. まちづくりの方針

3章のテーマを達成するための取り組み方針を記載

５章. まちづくりを実践するために

地域主体で活動を実践していくための人づくり・組織のあり方、行動計画などを記載

今後の取り組みについて

今年度

合計３回のまちづくりワークショップ及びまち歩きを実施

来年度（平成20年４月以降）

○来年度も、引き続きワークショップを開催し、上記ガイドラインの基本構成案をベースに、ガイドライン作成に取り組んでいきます。

あとがき

ワークショップ参加者の皆様、活発な議論ありがとうございました。

参加者の方々はもちろん、地域の皆様とともに『鹿児島駅周辺まちづくりガイドライン』を作成していきたいと考えています。

今後とも、引き続きよろしくお願いします。

【お問い合わせ先】
鹿児島市 建設局 都市計画部 都市再開発課
Tel:099-216-3188／Fax:099-216-1398
E-meil:tosisai6@city. kagoshima. lg. jp

2008年3月11日

鹿駅まちづくり活動ニュース Vol. 3

編集・発行／鹿児島駅周辺まちづくりワークショップ事務局
（鹿児島市 都市再開発課　TEL 099-216-1388）

鹿児島駅周辺まちづくりワークショップ 第3回 が開催されました！

平成２０年２月２７日（水曜日）、午後6時半から「かごしま市民福祉プラザ」にて『第３回 鹿児島駅周辺まちづくりワークショップ』を開催しました。

今回は、『これからのまちづくりを考えよう！』をテーマに、「まちづくりのテーマ等」や「ガイドライン基本構成案」について話し合いました。

当日の次第

1. 開会
2. 事務局説明
3. ワークショップ
   テーマ『**これからのまちづくりを考えよう！**』
4. 閉会

鹿児島駅周辺まちづくりワークショップとは

まちづくりの主役である地域住民等が行政と密に連携しつつ地域が主体となった実行力の高いまちづくりに向けて、地域の価値や問題点を共有した上で、まちづくりの指針となる「まちづくりガイドライン」の作成に取り組む場です。

ワークショップ作業の概要

Ａグループ

≪まちづくりのテーマ等における主な意見≫

・『人と人が支えあう歩いて暮らせるまちづくり』、『老若男女の多世代居住のまちづくり』、『多様な魅力を秘めた回遊性の高いまちづくり』、『懐かしさの残る昭和レトロのまちづくり』といったまちづくりの方向性（テーマ）が参加者間で共有された。

・テーマを話し合う中で、本地域の有する交通条件を活かし「バスターミナル、駐車場の整備によるパーク＆ライド、観光バスの発着場、市電の伊敷線及び環境にやさしい乗り物である自転車で快適に走りまわれる交通空間整備、観光自転車の導入」、より快適で安全なまちづくりに向けては、「ゴミステーションの管理、防犯灯の設置及び医療施設、スポーツジムの導入」、まとまった遊休地を活用した「アミューズメント施設、体育館等の集客力の高い施設を導入、フリーマーケットの開催」等の意見、アイデアが出された。

≪ガイドラインの基本構成案について≫

・ガイドラインを実効性のあるものとするための組織づくりとして、千円会費で懇親会を開催する、広報を発行し広く活動を知らしめ輪を広げる、例会を開催し横の結びつきを強化する等が提案された。

・まちづくりに向けては、活動資金を確保することも重要となる。

・任意の団体では、まちづくりに関する支援を受けることが難しいことから、ＮＰＯ等の法人化を図ることも考えられる。

・まちづくりの活動を実践していくためには、「人」が基本であり、特にまちづくりを先導していくリーダーの存在が鍵となる。

・先ずは、実績をつくることが重要であり、小さなことから始めて実績を積み重ねていくことが活動を推進することになる。

など

Ｂグループ

≪まちづくりのテーマ等における主な意見≫

・『昭和風情を残したまちづくり』、『イベントや朝市開催による賑わいの創出』、『回遊性の向上』、『花や緑による通りの演出』、『交通面での利便性向上』といったまちづくりの方向性（テーマ）が参加者間で共有された。

・加えて、『情報の共有・広報』というテーマが提案された。具体には、来訪者だけでなく「住民にとっても必要な情報があればチラシ等により情報を共有」したり、「道案内110番というのぼり」を店舗に立てて来訪者に広報するといったアイデアが提案された。

・なお、イベントの開催やマップの作成を行う際には、名山町だけではなく他の町内会や通り会と連携しながら、対象地域全体で取り組んでいくべきとの意見も出された。

・その他の意見として、「住民自身がまちのことを学習できる場の提供」、「観光バスや乗用車の駐車場不足への対応」などの提案もなされた。

≪ガイドラインの基本構成案について≫

・ガイドラインを実効性のあるものとするために、提案された取り組みを例に検討を行った。

・イベントや朝市の開催やレンタサイクルの導入については「市民への広報」や「組織づくり（名山町以外の町内会や通り会の協力体制）」が必要である。

・マップづくり（観光スポット、美味しい店などの紹介）については、「誰が作成するのか、印刷は誰がするのか、更新をどうするのか、置き場所をどうするのか」等の検討が必要である。

・商店街や住宅地の通りに花や緑を増やすことについては、町内単位で市から花の苗を提供してもらうことができるので、その後は住民で維持・管理を行う。

・名山堀の空き店舗の利活用については、「通り会や町内住民の合意形成や管理会社などによる運営」の検討が必要である。など

Ｃグループ

≪まちづくりのテーマ等における主な意見≫

・『資源（宝）を活かす』、『落ち着いたまち並み景観・環境を創出する』、『賑わいづくり・回遊性の向上』『情報発信・人づくり』といったまちづくりの方向性（テーマ）が参加者間で共有された。

・新たな意見として、『賑わいづくり・回遊性の向上』では「歩きやすい空間づくり、シティビューの更なる活用、通り会の連携による賑わいの演出」、『情報発信・人づくり』では「かごしま県民教育文化研究所の有効活用とPR、外向けに利用しやすいネーミングの工夫、観光ボランティアの活用、〝癒し〟〝生きがい〟創出に向けた地元での庭の手入れや草刈」等が提案された。また、「歩きやすい空間づくり」に関連して、車中心から歩行者・自転車中心の『安全・安心なまちづくり』という方向性も出された。

≪ガイドラインの基本構成案について≫

・情報発信の方法を検討する必要がある。

・住んでいる人の満足度向上が大切であり、そのためには地域が主体的に自分たちのことを考える必要がある。

・また、地域の良さを後世に継承していくため、大龍小で実施されている「いにしえの歴史を学ぶ歩こう会」のように、子供達にも歴史を伝えていくことが重要である。

・やる気のある人から、できることから始めることが重要であり、その第一歩として、地域の人が分かりやすいマップづくりを行ってはどうか。

・地域が連携しないと始まらない。通り会・町内会・地域住民等が思いをぶつけ合う意見交換の場を設け、商店街の活力を波及させるなどにより地域全体を活性化していくことが必要である。

・現在の篤姫ブームを活性化に向けたきっかけとして、このタイミングをうまく活かすことが重要である。　　など

Ｄグループ

≪まちづくりのテーマ等における主な意見≫

・『古き良きものを活かした情緒の残るまち』『イベントやコンテストが開かれ賑わいあるまち』『景観を大切にするまち』『観光客を惹きつけるまち』『情報を発信するまち』『暮らしやすいまち』といったまちづくりの方向性（テーマ）が参加者間で共有された。

・さらに、『暮らしやすいまち』に関連して、『安心・安全なまち』『高齢者に優しいまち』といったテーマも提案された。

・新たな意見として、「車を排除し、歩いて暮らせるまちを目指すべき」、「昔ながらのまちなみを残し、ＮＰＯを窓口としてインキュベータとして活用」、「鹿駅に足湯や休憩所を設置する、レンタサイクルの実施、案内板の設置」などが提案された。

≪ガイドラインの基本構成案について≫

・『私たちが大切にしたい宝』については、「団塊世代のパワー」や「お年寄りの知恵」等を活用する考え方を盛り込む。

・『めざしたい将来の姿とまちづくりの目標』については、ひとづくりがまちづくりに通ずるということから、ひとづくりを大切にすべき等の考えを盛り込む。

・また、ガイドラインを実効性のあるものとするためには、地域でのコミュニケーション不足が課題として挙げられ、解決のために「町内会へ参加し、子供と一緒に清掃活動をする」「郷中教育を復活させ、先輩が後輩に良いこと、悪いことを伝える」ことが必要である。

・また、どうやって高齢者をまちづくりに巻き込むかも一つの課題であり、その解決の一歩がこのワークショップである。　　など

Ｅグループ

≪まちづくりのテーマ等における主な意見≫

・『薩摩の歴史を身近に感じるまちづくり』、『豊かな暮らしを演出するまちづくり』、『水を介した触れ合いを育むまちづくり』、『心身を磨く郷中の人づくり』といったまちづくりの方向性（テーマ）が参加者間で共有された。

・加えて、『賑わいづくり』というテーマも当地区においてあるべきで、訪問者に対して自分のまちのことを伝えられるよう勉強するといった住民意識の改革が重要であり、そのためにマップづくりをするといったアイデアが出された。

・その他の新たな意見としては、「地域力の育成、指導者の育成、学校教育との連携、いろはカルタの活用、車を入れない人優先のまちづくり、五社参りなどの地域行事との連携」等が提案された。

≪ガイドラインの基本構成案について≫

・ガイドラインの冒頭に、これまでのまちづくりとの関係整理や鹿児島駅周辺地区が指す範囲、地区の特性や課題（人口推移、産業の状況、公共施設の状況など）について盛り込む。

・「私たちが大切にしたい宝」としてこれまでの検討には食文化に関する視点がなく、新しい食の名物づくりをしていくことも重要。

・全体を通して、まちづくりを進めていく上で「人材育成」をすることが重要であり、郷中教育を進める指導者や組織の育成、学校教育と連携した取り組みへの展開、楽しみながら子供達に伝えていく工夫、若い人たちの力を借りる、住民の意識改革を行ってまちを好きになってもらうといった視点が重要。

・また、様々な取り組みを進めていく上で予算を確保することが必要であり、取り組みの優先順位を決めて効果的なものから重点的に実施していく。

・進捗状況を把握できる進行管理の仕組みづくり。　　など

Ｆグループ

≪まちづくりのテーマ等における主な意見≫

・『地域の宝を後世に伝える』、『まちなかの緑や空地を活かす』、『安全で快適な住環境に改善する』、『地域ぐるみで人を育て、発信する』といったまちづくりの方向性（テーマ）が参加者間で共有された。

・新たな意見として、「新しい住民（マンション居住者等）に地域の良さをしってもらう取り組み、小中高と連携した活動、古いものを残す為のルールづくり（眺望を守るための規制など）」等が提案され、特に、子どもの頃から地域への愛着を育む取り組みの重要性が提案された。

・他には、ＱＲコードの活用や子ども達による案内板作成などをはじめとした「様々な工夫による案内板の設置」、上町全体に広げた散策コースやＪＲ等と連携したツアーの提案など「上町全体の散策コースの設定」、観光のみでなく、高齢者対策等も含めた「ＮＰＯ法人や市民参加のまちづくり」、稲荷川の防災対策や生息環境に配慮した河川工事など、防災先進地区としてアピールすることで、環境学習の場として活用すべきではないか等の意見、アイデアが出された。

≪ガイドラインの基本構成案について≫

・『めざしたい将来のすがたとまちづくりの目標』については、「歩きたくなるようなまち」や「宝（資源）を保全するためのルールづくり（規制など）」、「住民同士（特に高齢者に対し）が支えあうような相互扶助のまち」等の考えを盛り込む。

・また、ガイドラインを実効性のあるものとするためには、既存の個々の力を連携させ活用することが重要であり、そのためにはリーダーとなる「住民の力を連携させる組織の育成」が必要。

・「出来ることから始める仕組み」として、行動計画を作成する必要がある。

・多くの住民が地域への愛着を育むためには、「高齢者と子ども（新旧住民など）を結ぶ活動を行う」必要がある。　　など